

補聴器特性とSPLオーディオグラムの見方

今回は、補聴器の状態を把握する「補聴器特性表」と補聴器を装着して測定した結果が記載されている

「SPLオーディオグラム」について説明します。測定結果にどのような情報が記載されているのか、ぜひ、自分自身の測定結果と照らし合わせながら、確認してください。

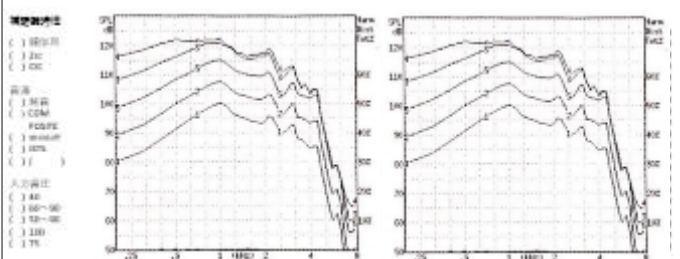
補聴器のデジタル機能について

補聴器にどのようなデジタル機能（ハウリング抑制や騒音抑制など）が入っているのかを記しています。

項目	左耳	右耳	項目	左耳	右耳
機種	機種
電池	電池
充電	充電
...

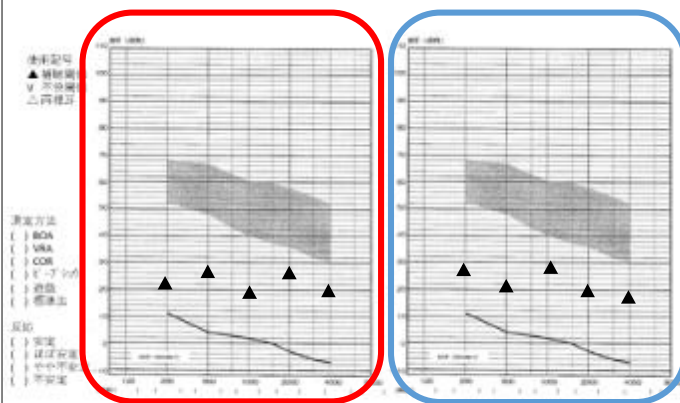
補聴器特性検査

補聴器にどれくらいのパワーが入っているのか、故障がないかチェックしています。
(詳しくは下の表)



補聴器装用閾値測定結果

補聴器や人工内耳などの補聴機器を装着して聞こえた一番小さな音を▲で記載しています。
左の表は右耳、右の表は左耳の結果になります。



補聴器の特性について

補聴器に50dBから10dBステップで90dBまでの音の大きさ、低い音から高い音までの音をきかせて、補聴器がどれほど音を大きくして耳に届けるのかを示しています。
例えば、★印の値は1000Hzの音の高さで、50dBの音が聞こえたときに、補聴器が50dBの音を大きくして、100dBの音の大きさを耳に届けていることを示しています。

